第２章　文化的景観の概要と価値

佐世保市黒島の文化的景観は、「水田・畑地など農耕に関する景勝地」、「垣根・屋敷林などの住居に関する景勝地」として独特のものであり、「自然地理的背景」、「独特な歴史的背景」、「人々の移住による文化の交流」、「巧みな植物の利用」に立脚した「生業空間と密接に結びついた集落景観」と言うことができる。

２－１　自然地理的背景

黒島は標高約 100m前後の台地状の島で、海岸部、特に標高 50mまでは急斜面となっている箇所が多い。島の南側の海岸線は東シナ海の荒波により 100mにも達する海岸が発達するなど人の居住には不向きであるが、標高約 100m以上はなだらかな地形となり、畑地や集落が点在している。

生態地理学上照葉樹林気候に属するが、対馬暖流の影響を受けた比較的温暖な海洋性気候であることから亜熱帯地方に見られる植物も多く自生しており、黒島とその周辺が分布の北限、あるいは北限に近い植物も多い。

サツマサンキライ（分布の北限）

長崎鼻の断崖

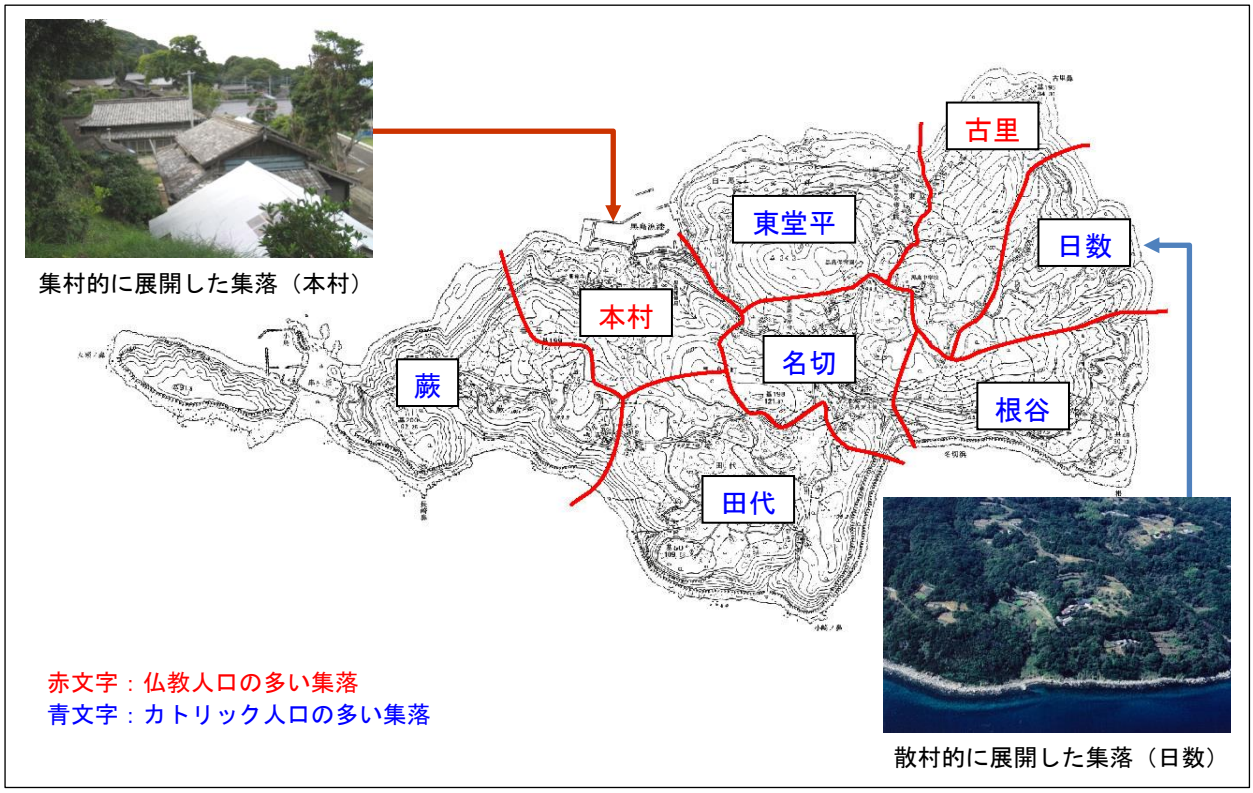
２－２　独特な歴史的背景

黒島には 14～15 世紀にかけて集落が成立し、18～19 世紀にかけて各地より潜伏キリシタンが移住してきたという歴史が明らかにされている。従来から住んでいた人々（仏教徒）と、後から移住してきた人々（潜伏キリシタン）はそれぞれ別々に集落を形成しているが、両者の集落形態や集落の展開には明らかな違いがあり、それが現在まで受け継がれている。

14～15 世紀の石塔（カッパ塚）

黒島天主堂

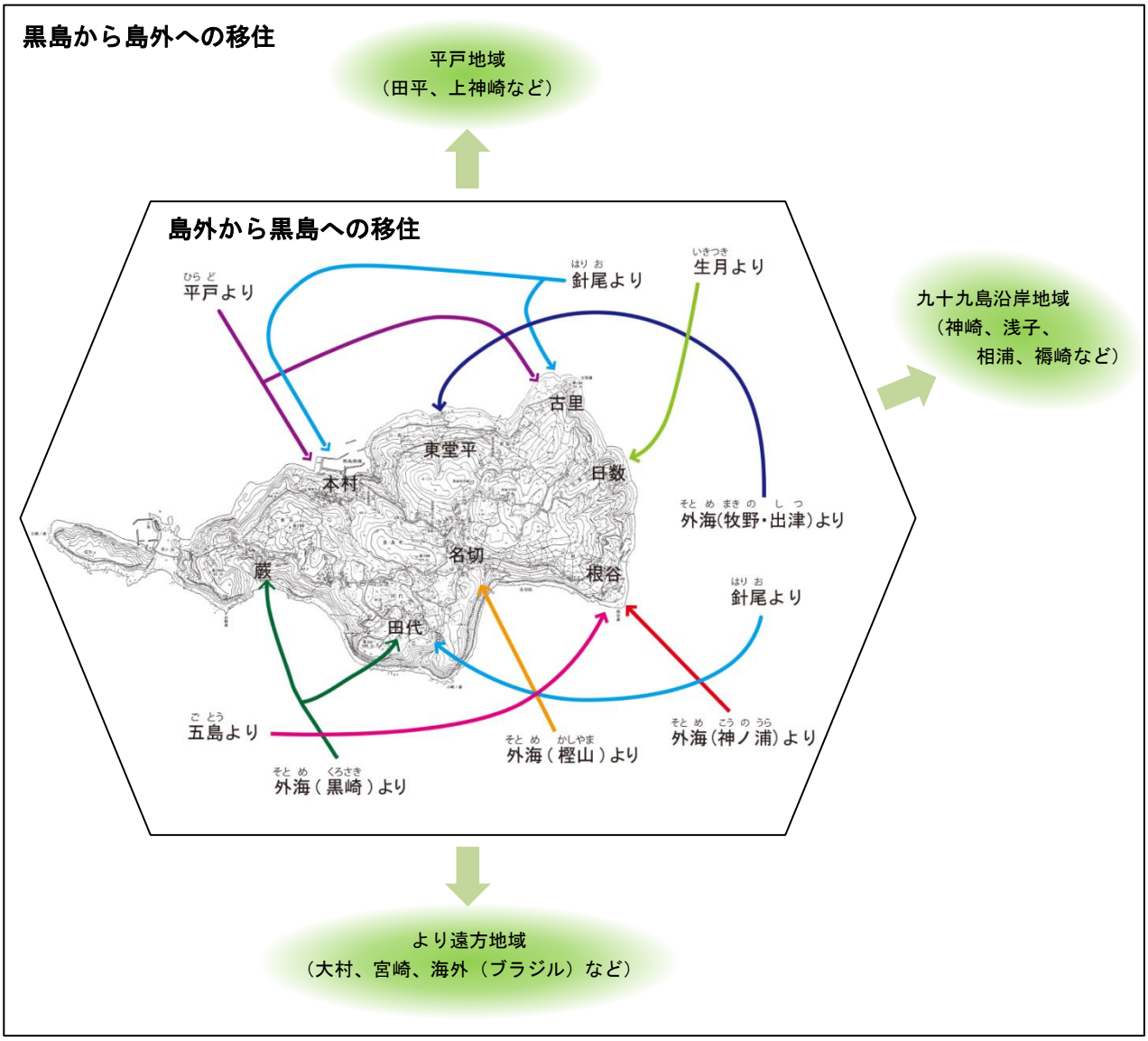
具体的には黒島の宗教人口の約 8 割がカトリックであり、8 集落のうち 2 集落（本村・古里）は仏教徒が多く、その他の 6 集落（蕨・田代・名切・根谷・日数・東堂平）はカトリック教徒が多く居住している。前者では平戸島が見える場所に集村的な集落を形成し、後者では島の周囲に散村的な集落を形成するなど対照的な集落展開を見せている。



黒島の集落位置と集落展開の形態

黒島へは江戸時代中期から明治初年にかけて各地から移住が行われたことが分かっている。享保年間（1716～35 年）に平戸や針尾から仏教徒が本村・古里地区へ移住したのが黒島への最初の移住と考えられている。その後、18 世紀後半から明治初年にかけて、外海、五島、生月などから潜伏キリシタン達が、東堂平、日数、根谷、名切、田代、蕨の各地区に移住してきたものと考えられている。

一方、明治に入って黒島におけるカトリック信仰の生活が安定してくると、元々立地条件が悪い土地に住んでいた黒島の信者達は他の地域への移住を始め、明治 13 年（1880）に上神崎（平戸市）への転出が始まり、その後も田平、神崎・浅子・相浦など対岸の九十九島沿岸地域、さらにはより遠方の大村、宮崎、ブラジルへの移住が行われた。



黒島における移住の状況

２－３　生業空間と密接に結びついた集落

このような特徴的な集落の景観を構成している要素としては、家屋やそれを取り巻く防風林・防風垣、在地の石材を使った石垣等、湧水地や井戸、耕作地がある。特に防風林は、地域の景観を特徴づける大きな要素となっており、その利用形態は家屋をはじめ、耕作地、生活道などに及んでいる。防風林にはスダジイなどの自然林を活用したものと、意図的に植樹したものがある。植樹された防風林を構成する樹木として、アコウ・イヌマキ・マサキ・サザンカなどが挙げられる。このうちイヌマキなど一部は外部からの持ち込みと考えられているが、大半は島内の自然植生から調達したものである。これらの中で、アコウの多くは敷地の石垣を巻き込むように成長し、かつ横方向にも広がる特性から、石垣の保護や夏の強い日差しを和らげる日よけの役目も果たしている。またサザンカは種子より採る油が食用油として用いられているなど、防風の機能のみでなく生活上有用な植物を植えていることが分かっている。また畑の防風林には背が低いマサキを選んで植えるなど、用途や場所によって防風林の樹種を使い分けていた形跡も認められた。

また、集落景観形成の特徴を示す大きな要素として、遊水地と家屋、耕作地の位置関係も重要である。本村地区以外の島の周囲各所から入植した移住者は、まず、急斜面の海岸を上った僅かな平地かつ湧水のある場所に防風林に囲まれた家屋を確保し、そこから丘陵地へ向けて耕作地を伸ばしてきた。このため、近代になって整備された車道からは、多くの家屋が目に触れることはないが、車道を一歩外れ海側を望むと、眼下に耕作地が広がり、その先に防風林に囲まれた家屋があり、そしてその先に海が広がるといった景観を見ることができる。これらがこれまでに大きな開発行為が行われなかったことによって、現在も良好な景観が残されている。

海～防風林～家屋～畑と続く土地利用
（蕨集落）

防風林に囲まれた家屋（蕨集落）
※落葉している木はアコウ

以上のような要素が有機的に結びつくことによって黒島の文化的景観の構成されており、一言で表すと以下のとおりである。

島しょへの移住に伴う人々の往来と文化の交流を背景とした特徴的な集落形成と 植物を利用した独特な集落景観

２－４　文化的景観における重要な構成要素

重要な要素一覧

番号	種類	名称
1	工場	宝亀石材工場
2	〃	黒島石材工場
3	事業所	佐世保市相浦漁業協同組合黒島支所
4	〃	ながさき西海農業協同組合黒島事業所
5	寺社、教会	黒島天主堂及び附属施設
6	〃	お告げのマリア修道会黒島支部修道院
7	〃	興禅寺
8	〃	黒島神社
9	〃	金刀比羅神社
10	〃	厳集落の仮御堂跡
11	防風林	集落の防風林
12	〃	根谷のアコウ
13	〃	根谷のサザンカ
14	〃	名切のサザンカ
15	景観木	本村のエノキ
16	〃	興禅寺のイヌマキ
17	竹林	集落の竹林
18	石造物	黒島港の三界万霊塔
19	棚田	本村の棚田
20	〃	白木谷の棚田
21	水田	東堂平の水田
22	畑地	根谷鼻の畑
23	〃	根谷の畑
24	〃	本村の畑
25	やぐら	屋根無しのやぐら
26	〃	屋根付のやぐら
27	溜池	岳池
28	水源	集落の水源
29	湧水	郭公谷の湧水
30	石切り場	田代の採石場
31	〃	海岸採石の跡

番号	種類	名称
32	公共施設（教育）	黒島小学校
33	〃	黒島中学校
34	公共施設（交通）	黒島旅客船フェリー乗り場
35	公共施設（教育）	黒島保育園
36	公共施設（行政）	黒島支所、公民館
37	公共施設（公園）	本村公園（本村役所跡）
38	公共施設（漁港）	黒島漁港白馬地区
39	〃	黒島漁港古里地区
40	〃	黒島漁港名切地区
41	〃	黒島漁港串ヶ浜地区
42	公共施設（道路）	市道
43	〃	里道
44	自然林	黒島神社社叢
45	〃	海岸林
46	〃	女瀬
47	風島	伊島
48	風島	幸ノ小島
49	海岸	黒島の海岸の岩場
50	〃	名切ノ浜
51	〃	蕨ノ浜
52	〃	小崎ノ浜
53	〃	東堂平ノ浜
54	〃	白木ノ浜
55	〃	里ヶ浦
56	〃	日数ノ浜
57	〃	根谷ノ浜
58	〃	串ノ浜
59	〃	伊島の海岸の岩場
60	〃	幸ノ小島の海岸の岩場

番号	種類	名称
61	河川	本村川
62	〃	白馬川
63	〃	番岳川
64	〃	小崎川
65	〃	黒島名切川
66	〃	黒島名切川支流
67	〃	日数川
68	〃	東堂平川
69	石造物	かっぱ塚
70	〃	信仰復活の碑
71	〃	興禅寺裏の石塔
72	墓地	興禅寺墓地
73	〃	興禅寺歴代住職墓所
74	〃	本村墓地
75	〃	小田墓地
76	〃	小田平墓地
77	〃	岳墓地
78	〃	田代墓地
79	〃	仕切牧墓地
80	〃	東堂平古墓
81	〃	東堂平墓地
82	〃	長谷墓地
83	〃	寄人の墓
84	〃	殉教墓

番号	種類	名称
85	戦跡	旧黒島南砲台発電所
86	〃	旧黒島東砲台発電所
87	〃	旧黒島東砲台探照灯格納庫
88	〃	白木の突堤
89	〃	旧名切砲台跡
90	〃	旧黒島発電所
91	〃	旧黒島番岳砲台聴音機跡
92	〃	旧黒島番岳砲台探照灯跡

文化的景観を構成する重要な要素（主なもの）

＜11. 防風林＞夏の南風、冬の北西風の強い黒島では家屋や農地の周囲に防風林が発達した。

＜50. 名切ノ浜＞各集落に最寄の海岸は船着場となっていた。この名切ノ浜は黒島天主堂建造時は材木などの資材の陸揚げに利用された。

＜69. かっぱ塚＞本村の畑にある大岩で、かっぱのいたずらを封じたとの伝承がある。

＜86. 旧黒島東砲台発電所＞大正３年（1914）に建造された砲台の発電所。佐世保軍港を守るためのもので、田代にも同じく砲台が作られた。

＜5. 黒島天主堂及び附属施設＞明治 35 年（1902）にマルマン神父の指導で建造された煉瓦造教会堂。黒島のシンボルであり、カトリックの人々の心の拠り所となっている。

＜7. 興禅寺＞移住によって人口が増加したため享和３年（1803）に創建された。人口が増えつつあったことを記した梵鐘が保管されている。